

COMMUNICATION MAGAZINE

The KPUM TIMES

vol.02

February 2019

京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌



◎特集

いまこそ知ってほしい

府立医大のがん対策

Part II がん対策A to Z



京都府公立大学法人
京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌

COMMUNICATION MAGAZINE

The KPUM
TIMES

vol.
02

CONTENTS >>

03 | 特集 いまこそ知ってほしい
府立医大のがん対策

Part II がん対策AtoZ

07 | 医学教育について

学生生活 ～本音トーク～

「カフェテリアポレポレ」新装オープン

府立高校へ出張授業の取組

11 | 新任教授紹介

細胞生理学 樽野教授

生体機能形態科学 八代教授

地域保健医療疫学 上原教授

13 | 府立医大いまむかし

建学150年に向けてII 建学を振り返る

14 | 寄附のお願い

「ふるさと納税」による支援が

できるようになりました

16 | 大学からのお知らせ

病児保育室に京都市内在住者地域枠を設置

エディンバラ大学との学生交流事業開始



京都府立医科大学の歴史とともにある鴨川の風景。
春になると対岸に桜が咲き乱れ、患者さん、学生、
教職員の心をなごませてくれます。



Part II がん対策AtoZ

院内案内対談

竹中洋学長×大辻英吾教授

(がん加速化プロジェクト
チームリーダー)

「都道府県がん診療連携拠点病院」として、がん治療をリードしてきた京都府立医科大学附属病院。「永守記念最先端がん治療研究センター」の本格稼働に向け、がん制圧センター長・竹中学長と、がん加速化プロジェクトチームリーダー・大辻教授（消化器外科）が院内を巡り、がん対策の全体像を御紹介します。

学長 2017年11月に「永守記念最先端がん治療研究センター」が日本電産(株)代表取締役会長兼社長永守重信氏がオーナーである(株)エスエヌ興産からの御寄附を受けて建屋が完成し、本格稼働に向け大学をあげて準備を進めています。医科大学の強みを活かし、専門分野が連携するがん征圧センターを中心に、陽子線治療の開始に合わせて附属病院内に「がん加速化プロジェクトチーム」を立ち上げ、がんという複雑多様な疾病に向き合う患者さんに、常にベストを尽くせるようながん対策に取り組んでいます。

大辻 「永守記念最先端がん治療研究センター」は、前号の特集で御紹介しましたね。センター内に設置される京都府下で初めての陽子線治療は、従来の放射線治療より低侵襲、つまり副作用

が少ないことが特徴です。がんに向き合う患者さんによりよい治療方法のひとつとして提供できるよう、現在、運用に向けて慎重に準備をしているところです。

学長 都道府県がん診療連携拠点病院として、本学附属病院のがん対策はそれだけではありません。治療環境の整備はもちろんですが、がん相談から緩和ケアまで、最高のQOLを提供できるよう取り組んできました。

大辻 様々な取組をしてきたわけですが、どうも全体像がわかりづらいという声も……。

学長 それなら、せっかくですし附属病院内を巡りながら御紹介しましょうか。

特集 いまこそ知ってほしい 府立医大のがん対策

ポイント1 がん相談

本学附属病院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、また全国でも数少ない小児がん拠点病院に指定され、診断から治療まで高度で質の高い医療を提供しています。本院では、個々の患者さんの病状に応じて専門診療科の垣根を越えて診療に当たります。

がん相談支援センターは、がんと診断されたあとの不安、治療を受ける上での悩みや今後の生活のことなど、がん専門相談員(看護師、社会福祉士、臨床心理士)が、患者さんの気持ちに寄り添いながら一緒に考え、問題を解決するお手伝いをしています。

また当院は「がんセカンドオピニオン外来」を開設しています。当センターの相談員が窓口となり、患者さんが納得して前向きに治療を受けることができるようお手伝いをしています。



総合案内横にある「がん相談支援センター」

対談 I

学長 患者さんが納得し、前向きに治療を受けるためにもセカンドオピニオンは重要。当院でも積極的に受け付けています。

大辻 皆さんに与えられた権利で決して難しいことはありません。まずは相談してほしいですね。

学長 当院のがん相談支援センターでは、当院の患者さんだけでなく他院の患者さんや御家族、地域の方々にも御利用いただけます。

大辻 よりよい治療を行う上でも、不安や悩みを相談できる場所として御利用ください。がんと向き合う皆さんの心強い味方になりたいと思います。

がん相談支援センター

お電話もしくは直接お越し下さい。(予約不要)

[平日(祝日を除く) 午前9～12時、午後1～4時]

京都府立医科大学附属病院内 外来診療棟1階 電話:075-251-5283

小児専用ダイヤル:075-251-5605[※午後3時まで]

ポイント2 がん治療

がんの治療は大きく分けて①手術療法、②化学療法、③放射線治療の3つ。

本院のがん治療は外科治療が牽引してきました。最新のハイブリッド手術室の整備や手術支援ロボットの導入など、年間約5,000件の手術を行っており、高度で専門的な手術が安全に行える環境を整えています。

化学療法は、抗がん剤やホルモン剤などの特殊な管理を必要とする点滴による治療方法です。2018年2月に「永守記念最先端がん治療研究センター」に外来化学療法センターが移転。より安心かつ快適に治療に向き合えるよう、徹底した安全管理や環境整備を行いました。

放射線治療は、副作用の少ない治療方法の一つとして、化学療法と併用しながら根治を目指す治療方法です。これから始まる陽子線治療など、患者さんが納得できる治療方法が提供できるよう、力を入れています。



移転してより快適になった「外来化学療法センター」

対談 II



学長 改めて見ると、外光が注いで明るく、1室ごとにプライバシーにも最大限配慮して、専用のリクライニングシートやベッドで快適に過ごしていただける環境ではないかと。受入れ人数も増えて、患者さんの待ち時間もずいぶん短縮しています。

大辻 長時間の点滴が必要な方が最もリラックスできる環境をつくるのが重要ですね。救急医療科とともに合同訓練を行うなど、徹底した安全管理を行っていますので、安心して治療に専念していただけます。

ポイント3 緩和ケア

本院は急性期病院の中でも、いち早く緩和ケアへの取組を始め、2009年には緩和ケア外来をスタート。2016年には緩和ケア病棟を設け、全人的医療（個人に合った総合的な診断・治療）、QOLの向上を目指しています。

緩和ケア＝終末期医療ではありません。がん治療で生じるすべての不快な症状、愁訴を緩和・軽減することが本学の「疼痛緩和医療部」の目指す緩和医療であり、がんの診断・治療・緩和は常に三位一体のものと考えています。

スタッフは痛みを緩和するペインクリニック医師をはじめ、精神症状を和らげる精神科医師、放射線治療による疼痛症状緩和を行う放射線科医師、緩和ケアの専門知識を持つ認定看護師、服薬指導や相談に当たる薬剤師など多職種で構成。また、看取りをする御家族も、心身ともに万全の体制でサポートしています。



家のような温かい空間の「緩和ケア病棟」

対談 III

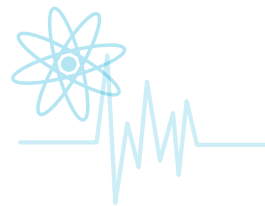
大辻 緩和ケア病棟は病室が16室ありますが、すべてが個室で、御家族が宿泊できるスペースも用意してあります。お風呂も広くて、ゆったりお湯に浸っていただけますよ。

学長 緩和ケアのニーズは年々高まっていますからね。施設整備だけでなく人材育成も重要です。大学としても緩和医療専門医をはじめ、がん医療専門の看護師や薬剤師など積極的に医療従事者の養成をしたいと思っています。

大辻 在宅医療などの連携も鍵ですね。がん専門の医療従事者の養成とともに、地域に広がるような取組に繋がっていききたいと思います。



府立医大の がん対策の展望



学長 改めて本院の患者さんだけでなく、地域でがん治療をされている皆さんに知っていただきたい本学のがん対策の取組を御紹介しました。

大辻 これから本格稼働する陽子線治療など、高度な医療提供はもちろんですが、大学病院における地域の病院との大きな違いは、やはり教育・研究機関でもある点ですね。

学長 そうですね。教育の面は非常に大きな役割を担っていると感じています。本学で学ぶ学生達にも、がん医療を通じて、医学の進歩や医療従事者としてのモチベーションに繋がるようきっかけづくりも考えていきたいですね。

大辻 専門的な医師の育成に関しては、「がんプロフェSSIONAL養成プラン」を設定して、世代に応じたがん医療を提供する人材育成に取り組んでいます。がんは非常に複雑な疾病構造で、患者さん一人ひとりがどのように向き合っていくのか、全人的医療を念頭に置いて私たちも専門知識を一致団結させる必要があります。

学長 専門知識の面では、ゲノム医療や再生医療といった、最新の研究に基づいた先進的な医療の導入にもいち早く着手していく必要があります。

大辻 臨床現場での研究が強い京都府立医科大学ですが、一病院で完結する研究はまずありません。地域の医療機関はもちろんですが、全国の医療機関や研究機関とも手を携えて取り組んでいく必要があります。

学長 今後もがん医療のニーズはますます増えていきます。「永守記念最先端がん治療研究センター」の本格稼働とともに京都府立医科大学のがん対策は大きな節目を迎え、新たな時代に応じて医療提供体制を整えていく必要があります。がんと向き合う患者さんのために、私たちがどのような役割を果たすべきなのか、今後も常に悩み、考えながら前進していきましょう。

特集 いまこそ知ってほしい 府立医大のがん対策

いよいよ本格稼働 永守記念最先端がん治療研究センター

2019年2月下旬から陽子線治療の外来診療受付を開始予定

陽子線治療をご希望の方は、まずはご自身のかかりつけ医に御相談を。紹介状(診療情報提供書)を発行してもらった上で、外来診療の御予約をお願いします。



治療は誰でも受けられますか？

放射線療法が効果的ながんであれば、陽子線治療の対象になりますが、がんという疾病は非常に複雑なため、検査や治療計画を考える上で、他の治療方法が適切な場合もあります。

お子さんや、手術が体力的に難しい高齢者の方、長期入院が難しい方などにとっては、体への負担が少なく、通院による治療が可能のため、画期的な治療方法の一つとなります。

保険は適用されますか？

保険が適用されるがんは、小児腫瘍(限局性の固形悪性腫瘍に限る)、手術による根治的な治療法が困難である限局性の骨軟部腫瘍、頭頸部悪性腫瘍(口腔・咽喉頭の扁平上皮癌を除く)又は限局性及び局所進行性前立腺癌(転移を有するものを除く)です。

先進医療※で治療できるがんもあります。詳細は御相談ください。

(※脳腫瘍、肺腫瘍、胆肝脾腫瘍、乳腺・婦人科腫瘍又は転移性腫瘍など)

治療の相談はどうしたらいいですか？

現在の病気の進行状態などをしっかりお調べした上で、患者さんにとって最適な治療計画と一緒に考えることから始めます。

まずは現在のかかりつけ医に御相談ください。

まだまだあります、がん対策

附属北部医療センター

「がん診療棟」新築工事に着手

がんの診断から治療までを一体的に実施する「がん診療棟」の新築工事に着手しました。京都府丹後医療圏では初の機器を備え、2020年春の診療開始を目指して進めていきます。

施設概要：鉄筋コンクリート造 平屋建て982㎡

整備予定の機器等

放射線治療装置

体の外側から強い放射線を病巣に照射して、がんの治療や痛みの緩和を行います。丹後医療圏では初の導入となります。

PET-CT

がん細胞等に集積する性質をもつ放射性医薬品を体内に投与し、その分布を画像化し、同時にCT撮影した画像と重ね合わせて診断を行います。丹後医療圏では初の導入となります。

化学療法室

抗がん剤を注射・点滴してがんを治療します。これまで、病院南棟1階に7床で治療していたものを移転し、10床に増床します。

完成予想図(パース)



対談 学生生活～本音トーク～

学生部長
(細胞分子機能病理学 教授)

田中 秀央

医学科5回生
生協委員

八田 文月

医学科3回生
トリアス祭実行委員会 生協委員

藤崎 まりの

医学科4回生
トリアス祭実行委員長 生協委員

山口 智生



文武両道の環境を目指して

田中 生協食堂カフェテリアポレポレが移転して新しくなりましたが、どうですか？

八田 きれいに明るくなって、こちらの気分も一新したようです。気持ちよく食事ができるので、移転してからほぼ毎日、ランチはこのポレポレでとっています。

山口 前はいかにも古びていて暗かったから、うれしいですね。

田中 調べてみたら、名前はポレポレだったかどうか分からないけど、僕が生まれた年にオープンしてるんです。1992年に改修したそうだけど。

藤崎 歴史があるんですね。カウンター席があって外が見えるのがいい感じです。

山口 あと閉店時間後に自習室になった

のも助かります。

八田 6回生の方も言うておられましたが、図書館は静かに一人で勉強するところなので、お菓子を食べたりグループで話しながら勉強するところがほしかったと。

田中 そういう要望に応じて、ここではグループ学習の場所として開放することになりました。

山口 大学でももう少し休憩できる場所がほしいという要望も。講義と講義の間に休めるソファが講義室の前しかなくて。

八田 ソファに座ろうと思ったら誰か寝ているから座れない。

田中 あまりソファを置いたら寝てばかりになりませんか？(笑)。それは冗談

として、保健センターを整備しようと思っています。保健室ですね、体調が悪くなったときに休憩などで利用できる。

山口 それはいいですね。それと府立医大では勉強と部活を両立している学生が多く、僕は演劇部なのですが、図書館ホールの照明機器が壊れてなかなか修理されません。公演では外部からいろいろ機材を借りてパーツを補って使うと、かなり費用がかかってしまう状況です。

藤崎 八田さんと私は水泳部で、今年創部20周年で部員も50名ほどいます。西日本医科学生総合体育会で毎年数人が3位以内に入るなど成績もかなりいいのに、プールがないんです。

医学教育について



学生たちの声を受けとめる田中学生会部長

八田 それでいろんな施設に練習に行くんですけど、その前に交渉に行かなくてはいいけませんし、ジムならジムのお休みの日に使わせてもらい、1、2時間練習するのに片道2時間かかることもあって。結構な負担です。施設によっては全員が練習できるスペースがないことも。

田中 環境が整えばもっと強くなれそうですね。水泳の府立医大と言われたりして。

八田 それは保障します(笑)。

藤崎 (笑)ですから何か方法はないものかと。よく部員で話しているのは、たとえば昼間は附属病院のリハビリ患者さんに使っていただいて、それ以外の時間に学生が使わせてもらえるようなプールがあればいいと思うんですけど。

田中 なるほど、附属病院の施設としてというのはいいアイデアですね。

八田 部活のことではクラブボックスも検討いただけると……。

山口 場所も遠いし、古くて床も抜けそうですね。

藤崎 さきほど休憩場所の話題が出ましたが、クラブボックスが大学の敷地内にあった頃はそこで休んでいる人もいま

したよね。

田中 よくわかりました。僕らの時代とは生活スタイルも環境も大きく異なっていますから、大学としてもみなさんの勉強と部活の両立をどうサポートできるのか、本格的に検討しなければならないと思います。

1回生から医学に触れる機会を

田中 2019年入学の1年生からまた

新しいカリキュラムが導入される予定です。もっと医学に対するモチベーションを高められるように、たとえば1年生から医学に触れるような垂直統合型の教育内容にしたいと思っています。細かなところは臨床などで積み重ねが必要ですが。

八田 すごくいいと思います。2年生のときに、それまで教養のみの勉強だったのが急に医学の専門分野に触れることになるので、6年間の医学教育の中で一番つまづきやすいように思います。

田中 それに医師になりたいという志の熱いうちから医学に触れてもらうことはすごく大事ですから。

山口 具体的にはどんなことを考えているのですか？

田中 今考えているのは、患者さんやその御家族のお話を聞き、何を感じたか、どう向き合うべきかなどを少人数でディスカッションをする。学生さん一人ひとりが能動的に考えを深めていけるような授業を今後はどんどんやっていきたいと考えています。学生さんの声も積極的に聞いて、学生と教員の双方向の評価を行って、さらに教育効果を高めていきたいですね。



本音トークに熱がこもる、八田さん、藤崎さん、山口さん

盛り上げよう！学祭「トリアス祭」

山口 僕はトリアス祭の実行委員長なのですが、各方面からの支援が少なくなり、芸能人を呼ぶなど派手なことをしなくても大きな赤字です。期間も短縮され、今後続けていけるかどうかの瀬戸際です。

藤崎 内輪でわいわいやっているだけですよ。

田中 僕らが学生の頃は仮装して祇園までパレードしたりして呼びかけていたけれど。

山口 それをするにしても、運営する立場としてはやはり支援がどうしても必要かと…。皆さんに実情を知ってもらえたらと思うんです。

田中 もちろん、それは大学をあげて応援しなくては。トリアス祭をもっと盛り上げよう、せっかくだから附属病院も含めて一緒に盛り上げよう！という話も出ています。トリアス祭、オープンホスピタル、ホームカミングデーなどと一緒に企画して、地域の方や大学OB・OGにも声をかけたりする方法もありますね。

八田 ぜひぜひ。トリアス祭という名前も、もともとはギリシャ語のトリアス(意味:三位一体)が語源ですので、大学、病院、地域を巻き込んだ取り組みにできれば嬉しいです。

田中 みんなで盛り上げましょう。特に2021年には本学は大学昇格100周年を、2022年には創立150周年を迎えます。その記念として学生のための施設建設も検討されていますし、記念事業とトリアス祭をともに盛り上げたいですね。せっかくだし今年から一つひとつやっていきましょう。

山口 よろしくをお願いします。

田中 こうして皆さんの本音を聞くと課題も多いですがとても前向きに大学をよくしたい、という気持ちが感じられて我々もその想いに応えていきたいとますます感じました。とても有意義でした。本日はありがとうございました。また聞かせてください。

「カフェテリアポレポレ」新装オープン

お話 | 中西 寛子 店長

生協食堂「カフェテリアポレポレ」が、昨年10月1日、管理棟1階に新装オープンしました。地下から移転したことで陽射しの注ぐ明るい空間に変身。白を基調に配膳カウンターや床などは木目を生かして温かみがあり、器もカラフルに。「カフェみたい!」と、女性には特に好評です。窓際には街路樹を望むカウンター席も配していますので、お一人でも気軽に御利用いただけますよ。メニューは今まで通り、カレー・丼、麺類のほか、メインディッシュは毎日でも飽きないよう週替わりで10種類ほどご用意。小鉢のお惣菜はおよそ20種類。生協食堂は食育の役割も担っており、メニュープレートに栄養表記をしています。それを参考に何品かを組み合わせ、ぜひバランスよくお召し上がりください。

生協食堂「カフェテリアポレポレ」

場 所: 京都府立医科大学 河原町キャンパス管理棟1階

営業時間: 平日 午前11時～午後3時

(学生自習室 利用可能時間: 午後3時～午後10時)



医学教育について

地域に根ざした「優しい校風」 京都府立医大でつかむ「キミ」の未来！

～府立高校への出張授業の取組～



京都府立医科大学は、京都府教育委員会との連携事業として、教員が府立高校を訪問し出張授業を行っています。統合生理学八木田教授は今年、洛北高校や嵯峨野高校で睡眠や体内時計の話をしたが、今回は、京都府南部の近鉄高の原駅からほど近い京都府立南陽高校での出張授業を御紹介します。

南陽高校へは、教員と医学科の学生と一緒に訪問し、直に医大生のリアルを伝えるスタイルが好評で今年で4回目となります。「毎年、医学部を目指す高校生たちに、現役医学生のあるのまをお伝えしに行っています。」と語る八木田教授。今回、高校生たちの前で医大生ライフを話してくれたのは、学年でもトップクラスの成績優秀な医学科3回生井田学さん。

「毎年、府立医大を代表するような学生さんをお願いしています。」そう語る八木田教授の狙いは、高校生にリアルな目標として府立医大生をイメージしてもらうこと。優しい笑顔が印象的な井田さんは、そんな憧れの先輩を絵に描いたような学生です。「受験勉強と入学後、どちらのほうが勉強は大変ですか？」と高校生からの興味津々な質問には「受験生のときは勉強だけに集中できたけど、入学してからは部活やバイトや旅行などやりたいことを全部やっていて、勉強時間を作るのが大変になりました。」

となんでも器用にこなしてしまう井田さんならではの答えも。そして、医大生としての生活の全てが将来の医師としての人間力につながる、とまとめてくれました。授業終了後も「なぜ医学部に行こうと思ったのか？いつから医師になろうと考えたのか？」と質問攻めにあっていましたが、その全てにニコニコしながら優しく丁寧に答える井田さん。高校生たちの目も府立医大ライフへの憧れでキラキラと輝いていました。

八木田教授からは、進路の分岐点に立つ高校生たちに向けて、「学び」のモチベーションに繋がるメッセージが。

「成績が良いだけで医師になるというものではないし、偏差値で学校を決めるものでもありません。まずは、自分が何になりたいのか、何のために勉強をするのか、ということをしっかり考えてみてください。それを見失わない人は、自ずとその道を進んでいきますよ。」

そして、最後に高校生に伝えたのは、「医師は一生医師。職業と人格が不可分な特殊な職種です。生涯にわたり医学の勉強は続きます。そして、常に弱者と向き合うのが医師です。地域に根ざした優しい校風の京都府立医大で未来をつかんで欲しいと思っています。」

京都府教育委員会との連携事業：今回御紹介した八木田教授（統合生理学）のほか、中屋教授（感染病態学）や鈴木教授（医薬品化学）など、各府立高校から依頼を受けた教員がそれぞれの専門分野や持ち味を生かした出張授業を提供。対象の府立高校は、洛北、嵯峨野、桃山、南陽、福知山、宮津、峰山の7校。

新任教授紹介



大学院医学研究科 細胞生理学 教授

樽野 陽幸 Taruno Akiyuki

着任日:2018年9月1日

略歴: 京都府立医科大学卒業後、国内留学を経て米国・ペンシルバニア大学で3年間勤務。その後、本学大学院医学研究科細胞生理学助教として戻り、2018年9月に同学教授に着任。

Standing on the shoulders of giants

「生理学」とは生命の理(ことわり)についての学問、ダイナミックな生命現象を様々な側面から追求する学問で、もっとも古い基礎医学研究分野の一つです。一方で、現在でもオプトジェネティクスなど日進月歩の技術革新を背景に、新たな生命機能コンセプトが創出され続けているホットな分野でもあります。現在の研究では、味覚系で発見した新しい細胞間情報連絡機構が消化管や脳をはじめ、全身でどのような生理的役割を果たしているかに着目しています。

本学在学中から基礎研究に没頭し、卒後も臨床研修を受けずに進学し、学位取得後はすぐに海外留学、と研究医一筋で進んできました。大胆な進路選択でしたが、やりたいことをやってしまう思い切りも振り返れば大事であったと感じています。本学はチャレンジできる環境に恵まれているので、学生達も躊躇せずに若い情熱の赴くままに進んでいってほしいと思います。

現在本学の医学教育カリキュラムも国際化に向けて過渡期にあり、次世代を育てていく責任感を痛感しています。どんな時代にあっても臨床医や研究医に求められる資質は責任感と向学心(好奇心)だと思います。よりよい人材育成のために微力ながら貢献していきたいと思います。

物事の名前ではなく本質を知ること

もともと私は小児科医でした。先天性心疾患のお子さんに何ができるのか、研究を進めていく中で府立医大の小児心臓血管外科の高い評価を耳にしていたこともあって、今回教授としてのご縁をいただいたことはとてもうれしく思っています。

当初より、先天性心疾患の子どもたちに向き合いながら、自分が命に対して最も尽くせる場所を模索してきました。先天性心疾患患者の長期的予後を改善するためには、現在の治療学の進歩だけではなく、その成因を深く理解することも非常に重要です。そのためには、心臓を構成するパーツである各細胞がどのように出来上がり、かつそれらがどのように相互作用しながら正しい心臓の形を作り上げて行くのか、更に深く知らねばなりません。このような知見は、再生医療や創薬にも繋がる知見となるはずです。

臨床医としてのルーツを大切にしながら、基礎医学研究者として医師ならではの着眼点を持った研究を重要視しています。いつでも胸には小児科に進んだ自分がいますね。臨床の現場でマニュアルが通用しない局面に直面した際に、どうすべきかの答えを自ら探すことができる学生を育てていければと感じています。



大学院医学研究科 生体機能形態科学 教授

八代 健太 Yashiro Kenta

着任日:2018年11月1日

略歴: 大阪大学卒業後、小児科医としてNICU等に勤務する傍ら、先天性心疾患に関する研究を始める。2007年から9年間、ロンドン大学メアリ女王校医学部に在籍し、上席講師として研究と教育に従事。

新任教授紹介



大学院医学研究科 地域保健医療疫学 教授

上原 里程 Uehara Ritei

着任日:2019年1月1日

略歴:東京慈恵会医科大学卒、医学博士。東京慈恵会医科大学、自治医科大学での教育、研究に携わり、行政医師として保健所長の経験などを経て、2019年1月に本学地域保健医療疫学教授に着任。

Think globally, act locally

医師になった当初は小児科医として勤務していました。小児科は子どもさんの病気はもちろん、御家族やその未来も含めて全てを診る広い視野が大切な分野でしたので、大学院に進むときには、さらに広い分野に興味を持って、現在の公衆衛生の道に踏み出しました。

公衆衛生という分野は、集団単位で健康増進や疾患予防を考える、社会の循環の中で健康課題に向き合う学問です。学生時代は社会全体の流れというものが見え、難しい分野だと感じていましたが、医療機関以外の保健所での経験などを経て、その関わりの広さや考え方の面白さを実感しています。身近な生活に直結する公衆衛生の考え方は医師として患者さんを総合的に診るための考え方の基礎でもあります。何事も初心に立ち返ることこそが、課題解決の糸口です。学生たちがどんな道に進んでも広い視点に立ち回り、患者さんに向き合うことができるよう、伝えていきたいと思っています。

この度、学生時代に部活の定期戦でなじみがあつた京都府立医科大学にご縁があつて教授として着任することになり、大変光栄に思っています。歴史の重みを肌で感じながらも、明日に向かって進んでいけるよう努めていきたいと思っています。

もっと知りたい!府立医大の先生

京都府立医科大学ラジオ放送「Kyoto Medical Talk」放送中

京都府立医科大学の先生が毎週火曜日に生出演。

地域の皆さまに大学の取組や季節に合わせた健康のお話、最新の医学研究の深い話などをお届けしています。

放送予定はホームページで随時お知らせしています。

<https://www.kpu-m.ac.jp/doc/newsletter/radio.html>

放送日: 毎週火曜日 午後0時40分頃～

放送局: α-station(FM京都)
ホームページURL:<https://fm-kyoto.jp/>

放送番組: SUNNYSIDE BALCONY(番組blog)内
「Kyoto Medical Talk」

番組提供: (株)堀場製作所



ラジオに出演する竹中学長とDJ慶たまさみさん

ラジオで聴く

京都府内を中心に、FMラジオチューナーを通じて聴くことができます。
周波数…京都89.4MHz 宮津79.8MHz 福知山81.3MHz 峰山85.4MHz 舞鶴87.2MHz

radikoで聴く

パソコンやスマートフォンでラジオが聴けるIPサイマルラジオ。聴き逃した場合も1週間以内ならタイムフリー視聴が可能です。配信エリアの枠を越えて全国各地で聴くことができる「radiko.jp プレミアム」も提供中。
ホームページURL:<https://radiko.jp/>

LISMOで聴く

全国民放FM52局のラジオ放送をエリア制限なく視聴できるau公式ラジオアプリです。
<https://radio.lismowave.jp/mds/android/service/pc.html>

府立医大いまむかしー建学150年に向けてⅡ 建学を振り返るー

日本の西洋医学の導入は、歴史書を見ると杉田玄白氏がオランダ語で書かれた「ターヘル・アナトミア」を「解体新書」として訳したところに始まりますが、本格的な導入は江戸幕府が終焉を迎え、諸外国の軍医たちによる実践的な西洋医学を目の当たりにしたことに始まります。

このことは「京都府立医科大学百年史」に詳しく、戊辰戦争による負傷者の手当のため、イギリス公使に外科医の派遣を要請し、野戦病院で手当にあたった公使館付医官の活躍が宮中にも伝わり、明治維新を前に、明治天皇の意志として西洋医学の導入の方針が出されたことなどが記されています。

京都府立医科大学の前身である京都療病院が1872年(明治5年)に設立された当時、京都は明治維新を迎え天皇の東京巡幸にひどく動揺し、衰退の兆しを見せていました。折しも時代は廃仏毀釈の混乱の渦中であつたこともあり、時の京都の医師たちが新しい事業に眼を向け始めた寺院の住職に働きかけ、寺院や花街の寄附を受けて、京都療病院は青蓮院門跡内に設立されました。

かつての欧州での病院の設立・運営が教会・修道院におけるものだったことを踏まえると、京都療病院の開設時、日本で初めて赤十字の旗が掲げられたことは感慨深いものがあり、医学(科学)と宗教(思想)の本質が近いものであつたことを物語っているといえます。



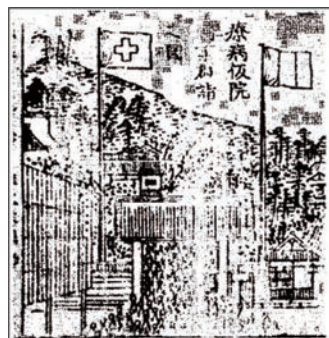
「青蓮院門跡」
(京都市東山区)

天台宗の門跡寺院(住職が皇室または摂関家として受け継がれてきた寺院)の一つ。江戸時代には粟田御所として仮御所になったこともある格式高い寺院。現在も本学発祥の療病院の石碑が寺院内に見られる。

「赤十字旗掲揚の図」

(出典:療病院開業式 式次第)

療病院の開業式には、門前に赤十字旗が掲げられたと記されている。1864年ヨーロッパ諸国はジュネーヴで赤十字条約を調印しており、スイス国旗を反転させた赤十字を掲揚している野戦病院等には攻撃しないという取り決めがされていたことを受け、日本で初めて掲揚されたものであつた模様。現在の赤十字社とは無関係であるが、当時の欧米文化の輸入に寛大な精神風土が窺える。



京都府立医科大学附属図書館にて保管されている現存の重訂解体新書。

京都府立医科大学附属図書館

ホームページURL:<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>
明治時代に書かれた貴重図書などが図書館ホームページ・デジタルアーカイブで閲覧可能。

歴代学長インタビュー



元京都府立医科大学学長
元京都府立医科大学病理学教室教授

藤田 哲也

(昭和6年8月5日生まれ、87歳)

(1989年学長時代撮影)

振り返ってみると、本学の設立は1872年(明治5年)ですので、2019年11月で147年になります。我が国で明治初期からドイツ医学を基礎とする授業が正式に始まったのは、東京と京都でしたが、よく調べてみると、現役ドイツ軍医ミュラーとホフマンによって西洋医学が導入された東京でも、ヨンケルが最初に着任した京都でも、実際に医学教育が始まったのはほぼ明治5年ですので、どちらが先かということは、あまり問題ではありません。

むしろ、設立目的の本質的な違いがあります。当時整備されつつあつた日本の軍事体制の中で、国が設置者となり、設立・運用のすべてを日本国政府が任った官立と、そのような支援なしで民間の力だけで設立・運用された京都療病院(京都府立医科大学の前身)は、その在り方が大きく異なります。

京都療病院の設立式典に際して設立者代表である京都府知事らが読み上げた「療病院の設立目的」は、当時としては驚くべきもので「この療病院は、府民の寄附によって設立されたものであつて、もっぱら府民の疾病予防のために捧げられるものである(つまり、軍や国家のためでない)」ことが強調されていたのです。

寄附のお願い

KPUM
Support

京都府立医科大学は1872年に創設以来、多くの府民の皆さまや卒業生の方々の御支援をいただきながら、今日まで地域医療の根幹を担ってまいりました。

2022年には創設150年を迎えます。これからも皆さまにとって頼りがいのある、心を預けられる「府立のお医者さん・看護師さん」を育てていくために、社会の要請に応え続けるために、私たちは持ち得るすべてを賭して挑むより他ありません。

明日の医学・医療を支える人材育成に、皆さまの御支援をよろしくお願いいたします。



世界トップレベルの医学を地域へ
京都府立医科大学 学長 竹中 洋



「ふるさと納税」による支援ができるようになりました

2018年11月から京都府を通じたふるさと納税による寄附が可能になりました。「ふるさと納税」とは、自分が応援したい自治体に寄附することにより、お住まいの自治体の住民税から控除される制度のことです。もちろん、京都府内在住の方でも利用できます。

皆さまからの寄附金は、次のような本学の教育・研究環境等の整備に活用させていただきます。

寄附金の使い道



教育・研究
環境の整備



国際交流事業



開学150周年
記念事業

寄附の方法

次のいずれかの手続きで「ふるさと納税」による寄附が可能です。

①ゆうちょ銀行・郵便局からの払込み

専用払込用紙※にて、ゆうちょ銀行・郵便局からお支払いください。

②銀行等からの振込み

(京都銀行・京都信用金庫・京都中央信用金庫)

専用の京都府納付書※にて、上記金融機関からお支払いください。

③クレジットカードによるお支払い

以下のホームページアドレスからお申込みいただくと、クレジットカードでお支払いができます。

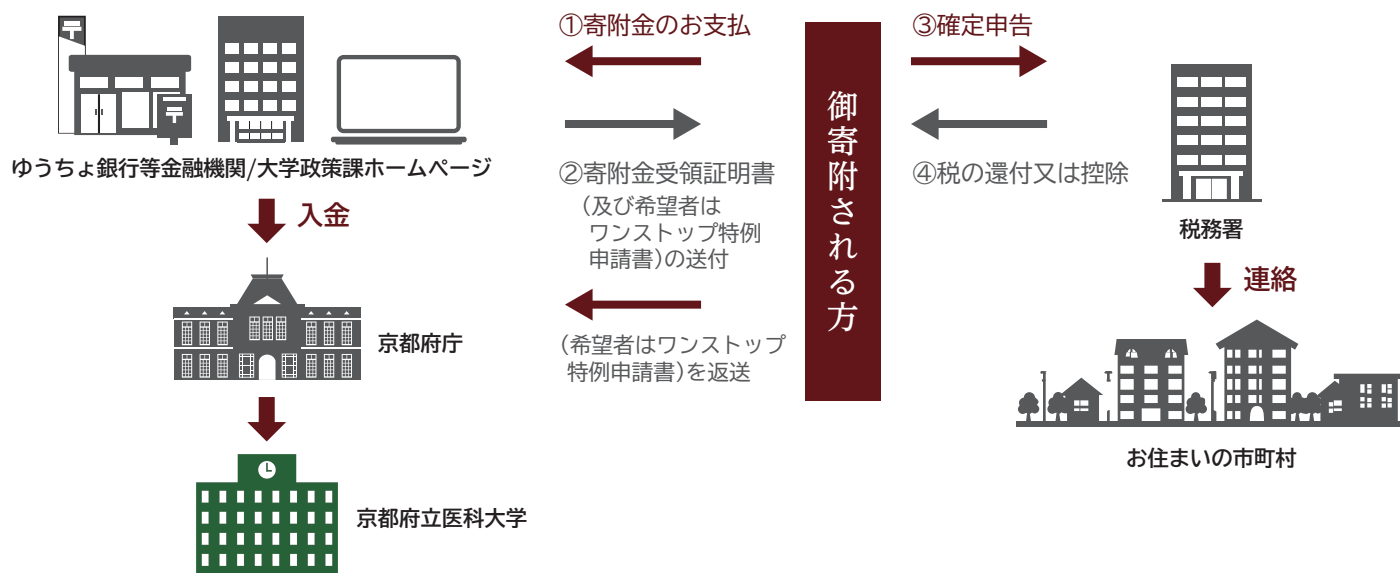
<https://www.pref.kyoto.jp/fu-daigaku/news/furusato.html>



※払込用紙・納付書を御希望の方は京都府又は府立医大までお申込みください。

「ふるさと納税」で大切な手続き（寄附金控除の流れ）

寄附額のうち2,000円を超える部分について、一定の上限まで所得税や住民税から原則として全額控除されます（※）。税金控除の優遇措置を受けるためには、必ず「①確定申告」を行うか、「②ワンストップ特例制度」のどちらかの手続きが必要です。



①確定申告

自営業者や一定額以上の収入がある方、医療費控除等を受ける場合は、税務署に確定申告を行う必要があるため、併せてふるさと納税の控除申請を行って下さい。

②ワンストップ特例制度

確定申告が不要な給与所得者等の方は、申告特例申請書の提出(5自治体まで)で住民税から控除が受けられます。

(※)例えば、50,000円をふるさと納税でご寄附された場合、48,000円が控除されます。
(収入額等によって控除額が異なりますので、詳しくは総務省ホームページを御覧ください。)

ふるさと納税とは？詳しい制度概要をご覧ください。(総務省ホームページ)

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/080430_2_kojin.html

寄附者へのお礼

寄附をいただいた方には、次のような顕彰制度を用意しています。(御同意をいただいた方)

1. 寄附者名の掲載
ホームページや大学発行の会報誌等に寄附者の御芳名を掲載させていただきます。
2. 感謝状の贈呈(50万円以上)
京都府知事並びに京都府公立大学法人理事長及び京都府立医科大学長から感謝状を贈呈いたします。
3. 銘板への掲示(100万円以上)
寄附金額に応じて、大学に設置する各銘板に御芳名を掲示させていただきます。

ふるさと納税に関する申込み・お問い合わせ

京都府文化スポーツ部 大学政策課
電話:075-414-4526 FAX:075-414-4187
E-mail:daisei@pref.kyoto.lg.jp
<https://www.pref.kyoto.jp/fu-daigaku/news/furusato.html>

京都府立医科大学事務局 総務課
電話:075-251-5210 FAX:075-211-7093
E-mail:soumu@koto.kpu-m.ac.jp
<https://www.kpu-m.ac.jp/doc/about/furusatonouzei.html>

大学からのお知らせ

病児保育室に京都市内在住者地域枠を設置

京都府立医科大学の病児保育室「こがも」で、京都市長の要請を受けて地域受入枠を新設し、京都市内に居住する病気のお子さんの受入を2018年12月3日から開始しました。

御利用の際は、事前に利用登録の上、「診察医連絡票」が必要です。詳しくはホームページを御覧いただくか、お電話でお問い合わせください。

なお、お子さんをお預かりしている間、附属病院の医師による診察は行っておりませんので、御了承ください。

地域とともに安心な子育て環境の構築に取り組んでいきます。

施設名称： 京都府立医科大学病児保育室(愛称「こがも」)

対象者： 以下のすべての条件を満たす子ども

- ・京都市内に居住する生後6ヵ月～小学6年生
- ・病期中(病児)のため、集団保育等が困難
- ・保護者の勤務等の都合により、家庭での育児が困難

定員： 3名

利用料金： 1日 2,000円(食事代別途)

※減免措置制度あり。(要証明書)

・生活保護世帯・市民税非課税世帯は無料

・所得税非課税世帯は1,000円

場所： 京都府立医科大学 河原町キャンパス

利用時間： 平日 午前8時～午後5時30分
(祝日、年末年始等の閉室日は除く。)



登録や予約方法など、最新情報はホームページを御覧ください。

京都府立医科大学男女共同参画推進センター: <https://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/careroom/kyotocityscc.html>

お問い合わせ 研究支援課 電話：075-251-5169 [平日(祝日を除く):午前9時～午後5時]

エディンバラ大学との学生交流事業開始

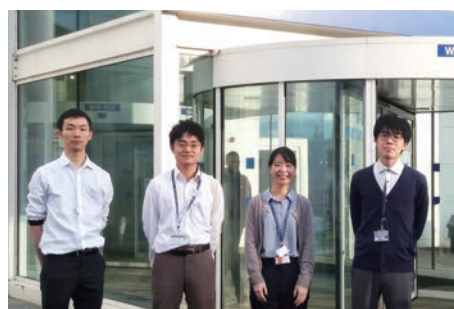
2018年6月26日にエディンバラ大学(英国)と国際学術交流協定を締結しました。(→大学広報誌vol.1掲載)

本協定は学生交流をはじめ、研究や教育において相互に連携することにより、医学を通じた両大学による社会還元を目的として締結されました。

2018年11月に医学科の学生4名が1ヶ月間短期留学し、エディンバラ大学附属施設の各専門分野に配置され、それぞれが日本との医療制度の違いや国外の医療現場を体験してきました。協定に基づく本学からの学生派遣は今回が初めてです。

また、渡航に併せて在エディンバラ総領事館への表敬訪問も行われ、高岡総領事から激励の言葉をいただきました。

今後は京都府立医科大学でエディンバラ大学からの留学生の受入れを行う予定であり、引き続き両大学の積極的な交流を進め、国際的視野を持った人材育成に取り組んでいきます。



エディンバラ大学附属病院前にて



高岡在エディンバラ総領事と派遣学生ら